

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和2年度学校評価結果

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 校長のリーダーシップのもと「有田大好き 進んで学ぶ さわやか有田っ子」を合言葉に、全職員が一丸となって学校目標の実現のため全力で取り組んだ。保護者、PTA、地域との連携も良好であった。 「子どもを知る会」を毎週水曜日に実施し、「気になる子」についての情報共有・共通理解を全職員で図り、関わり方等について協議し実行していった。SC,SSW,医療機関との連携も速やかに行うことができた。全職員で共通理解し指導していくことができたことが、問題行動や不登校や重大ないじめの事案が起きなかった要因と思われる。
2 学校教育目標	ふるさとを大切に、たくましい有田っ子の育成
3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ①学力向上をめざし、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図る。 ②特別支援教育を充実させ、気になる子への支援を全職員で組織的・継続的に行う。 ③地域と連携した教育を推進し、児童が郷土を愛し、誇りに思う心情を育てる。

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価				主な担当者
(1) 共通評価項目										
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	・校内研修等により取組の推進を図る。 ・全職員が、指導案検討、模擬授業に関わり、共通理解のもと授業研究会を行う。	A	・学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師は90%。 ・すべての授業研究会で、グループ研・全体研・模擬授業を行い、全員で授業づくりを行った。	A	・学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師は100%。 ・授業研究会では毎回、全職員が指導案検討、模擬授業等、授業づくりに関わり、共通理解・共通実践できた。	A	・学年に関わらず、学校が授業の流れを共通理解して、授業作りをしていることは、進級や職員の異動等環境が変わっても、子どもたちが見通しを持って学習に臨めるので、続けてほしい。	研究主任 学力向上対策コーディネーター 研究主任
	○小中連携し、児童が主体的に学ぶ授業改善	○全学級で授業研究会を実施する。 ○授業で課題解決に向けて、自分で考え自分から取り組んでいた」と回答する児童を93%以上にする。	・授業づくりのステップ1. 2. 3を意識し、目的を持った書く活動や話し合う活動を取り入れ、授業改善を図る。 ・中学校区内の、合同研修会や相互の授業参観を行う。	A	・「授業で課題解決に向けて、自分で考え自分から取り組んでいた」と回答する児童は96%。 ・11月までに、4学年が研究授業を実施。 ・夏休みにリモートで、管内小中学校合同研修会を実施。 ・全職員が、有田中、有田小の授業研究会に参加。	A	・「授業で課題解決に向けて、自分で考え自分から取り組んでいた」と回答する児童は92%。 ・全学級で研究授業を実施。研究協議では、毎回「書く活動の工夫」「話し合い活動の工夫」「めあての質・振り返りの視点」の柱で、研究テーマに迫る議論ができた。	A	・アンケートの結果からも、すすんで学習に取り組んでいる様子がうかがえる。 ・子どもたちの家庭での学習を見ている、自分ですんで課題へ取り組んでおり、しっかり学校で指導していただいている印象がある。	研究主任 学力向上対策コーディネーター 研究主任 学習部
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「友だちを大事にして、仲良く過ごすことができた」と考える児童の割合を90%以上にする。	・ふれあい道德などの公開授業やふれあい活動(縦割り班活動)の中で、思いやりの心や感謝の気持ちを育てる。	B	・「友だちを大事にして、仲良く過ごすことができた」と考える児童は97%。 ・ふれあい道德は、11月8日に今年度初めて授業参観を実施し、6学年中2学年実施。他の学年は今後実施予定。	A	・「友だちを大事にして、仲良く過ごすことができた」と考える児童は97%。 ・ふれあい道德は、11月8日に今年度初めて授業参観を実施し、6学年中2学年実施。他の学年は今後実施予定。	A	・学年や性別に関係なく、仲よく遊ぶ姿をよく見かける。思いやりの気持ちを大切にしている事がわかる。	道徳教育推進教師 人権同和教育担当 教育相談担当
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○「人権・同和教育、道徳教育を充実し、いじめ防止に努めた」教職員90%以上	・Q-Uテストや毎週の「元気カード」の結果をもとに、児童理解に努める。 ・個人面談を行い、一人一人の児童と担任等との対話を積極的に行う。	A	・「人権・同和教育、道徳教育を充実し、いじめ防止に努めた」教職員は100%。 ・Q-Uテストは6月に1回目を実施。2回目を12月に実施予定。	A	・「人権・同和教育、道徳教育を充実し、いじめ防止に努めた」教職員は100%。 ・2回目のQ-Uテストを12月に実施し、分析の職員研修を実施し、学級の傾向や気になる児童の支援について共通理解を図った。 ・担任と児童の個人面談を行った。	A	・来校した際、子どもの頑張りや出来事やそのときの子どもたちの気持ちを話してくださり、先生方が一人一人との対話を積極的に行ってくださっていると感ずる。	道徳教育推進教師 人権同和教育担当 特生活部 教育相談担当
●健康・体づくり	●安全に関する資質・能力の育成	●児童の交通事故をゼロにする。	・1学期に交通教室、学期始めに集団登校、毎月1回集団下校を行う。 ・登校班確認、通学路の点検、防犯ふれあい隊と連携し、見守り活動を推進する。	B	・児童の登下校中の交通事故ゼロが続いている。 ・交通教室は、臨時休校や天候不良等で延期となり、12月に実施した。	A	・児童の登下校中の交通事故ゼロを達成した。 ・毎学期始めに集団登校期間を設定し、児童の登校の様子や通学路の状況等をPTAに記録し、指導に役立てた。 ・集団下校の日、見守り隊の定例会で情報交換を行い、安全指導に役立った。	A	・集団登校、集団下校では、上級生が下級生を気遣いながら、登校する姿が見られた。 ・交通事故ゼロは、みなさんのおかげだと思うし、防犯ふれあい隊の日々の見守りには、感謝している。	生徒指導担当 安全教育部
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・会議時間の縮減に努める。 ・出勤システムで、職員の時間外勤務を常時把握する。 ・18時30分までの退勤を促す。	A	・全職員の時間外勤務時間の平均30時間。 ・会議は勤務時間中に実施できている。 ・おおむね18時30分までに退勤できているが、自宅で仕事をしている実態もあり、多忙化解消に努めている。	A	・学期末に、学級事務週間を設け、学級事務をする時間を確保し、時間外勤務の縮減に努めた。時間外勤務時間は、上期に比べ下期は減少した。			管理職
(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目										
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	主な担当者
○特別支援教育の推進	○全職員による共通理解と組織的支援	○「支援を要する児童への対応の仕方の理解が深まった」と考える教職員90%以上	・特別支援教育に関わる研修を年5回以上行い、専門的知識を深める。 ・毎週「子どもを知る会」を実施し、支援についての共通理解を図る。	B	・「支援を要する児童への対応の仕方の理解が深まった」と考える教職員は100%。 ・今年度は、講師を招いての職員研修は見合わせている。 ・「子どもを知る会」は、毎週実施し、支援の仕方の共通理解、ケース会議への連携等機能している。	A	・「支援を要する児童への対応の仕方の理解が深まった」と考える教職員は100%。 ・毎週水曜日「子どもを知る会」を実施し、支援の共通理解ができた。 ・スクールカウンセラーを講師に、発達障害への理解を深める職員研修を実施した。	A	・毎週気になる子や出来事や対応について共通理解を図る「子どもを知る会」は評価に値する。担任だけでなく、他の先生や管理職まで全校児童の情報が共有されていて、困りに寄り添った支援をしていただいているので、保護者の安心につながっていると思う。	特別支援教育コーディネーター
○地域と連携した教育活動の推進	◎地域の人材や、教育資源を活用した体験活動の充実	○「学校は保護者・地域と連携しながら教育を行っている」と考える保護者90%以上	・世界に誇れる有田焼をはじめ、地域の歴史・文化等、地域の人的・物的教育資源を活用した学習を年間を通して計画的に行う。	B	・多くの行事を中止・規模縮小したが、焼き物作りや歴史民俗資料館との連携等行った。 ・PTAの誕生給食や親子レク等は、今年度実施できていない。	A	・「学校は保護者・地域と連携しながら教育を行っている」と考える保護者は100%。 ・ゲスト審査員をお招きし、「焼き物展」を実施した。 ・3. 4年生が、前に古くから伝わる「大蛇伝説」を、保存会の協力を得ながら発表した。	B	・コロナ禍で、中止や規模縮小された行事が多く残念。学校はやり方を工夫して実施していただいていたことには感謝している。PTAの誕生給食は、来年度は是非実施したい。 ・委員の中には、文化・芸術に精通されている者も多く、焼き物以外にも、子どもたちに様々な体験活動をするために協力していきたい。 ・学校便りを見て、学校のあたたかさを感じ、楽しみにしている。	教頭 指導教諭
○落ち着いた生活態度の育成	○全児童が落ち着いた生活できる静かな環境づくり	○「あいさつ、静かな廊下歩行、無言掃除などができた」という児童が80%以上にする。	・「有田っ子プライド」(月目標)を全職員で共通理解を図り、指導を徹底する。 ・職員があいさつ運動を実施する。	A	・「あいさつ、静かな廊下歩行、無言掃除などができた」という児童が96%。 ・全校朝会や、集団下校時に継続して指導を続けている。	A	・あいさつができた児童94%。静かな廊下歩行ができた児童82%。無言掃除ができた児童87%。 ・「有田っ子プライド」(月目標)については、担当が全校児童にクイズや掲示物等工夫して指導したり、学級で朝の会で唱和したりして、意識を高めることができた。	A	・来校した際の、元気なあいさつや無言掃除をする子どもたちの姿に感心している。学校内だけでなく、町内でもよくあいさつしてくれて、今後も指導を続けてほしい。保護者・地域も協力していきたい。	生徒指導担当

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> 校長のリーダーシップのもと「有田大好き 進んで学ぶ さわやか有田っ子」を合言葉に、全職員が一丸となって学校目標の実現のため全力で取り組んだ。授業研究会においても、毎回全職員で授業づくりを行い、「共通理解・共通実践」できた。 保護者、PTA、地域との連携は、中止や規模縮小等状況に応じて判断することが続いたが、できる限りのことはやり方を工夫して行い、学校評価保護者アンケートにおいても肯定的に評価していただいた。来年度は、「コロナ禍でできなかったから例年通り実施」「やり方を考え実施」「対教育効果を考え実施しない」等、行事の精選の視点も入れ協議していく。 「子どもを知る会」を毎週水曜日に実施し、全職員で「気になる子」への支援を共通理解できた。学校・児童に関わる危機の未然防止・早期対応のための貴重な会議となっている。今後も続けていきたい。 今年度の重点項目に加え、来年度は一人1台タブレットが配置されたメリットを生かし、「ICT活用教育の推進」にも力を入れていきたい。
----------------	---